2026年3月期 第2四半期決算説明会

2025年12月9日

空気と水のテクノロジー

テクノ菱和

スタンダード市場：1965

目次

サマリー（概要）

1. 事業環境について P.3
2. 2026年３月期 第2四半期決算概要 P.10
3. 2026年３月期 通期業績予想 P.20
4. 中期３か年事業計画 進捗状況 P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 P.30
6. トピックス P.34
7. 参考資料 P.36

・ 価値創造プロセス
・ 「TECHNO RYOWA 2032」基本方針
・ 各種推移

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

サマリー（概要）

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

（1）2026年３月期 第2四半期決算概要（Ｐ.10）

2026年３月期 第２四半期は、日本国内への建設投資、設備投資など好調な受注環境を受けて前年同期比増収増益となりました。**売上高**は **436億円**（前年同期比 24.5%増）、**営業利益**は **63億円**（同 187.0%増）、**経常利益**は **65億円**（同 178.5%増）、**中間純利益**は **45億円**（同 170.8%増）となりました。

（2）2026年３月期 通期業績予想（Ｐ.20）

2026年3月期の通期業績予想については、**売上高**は **985億円**（前年同期比 17.0%増）、**営業利益**は **128億円**（同 32.9%増）、**経常利益**は **132億円**（同 32.9%増）、**当期純利益**は **96億円**（同 33.0%増）としており、**増収・増益**を見込んでおります。

（3）株主への還元（Ｐ.23）

当社は、中長期経営ビジョン『TECHNO RYOWA 2032』（2024年度～32年度）の期間中においては、**１株当たりの年間配当金**については**前年度の年間配当金を下回らない**こととし、利益の成長に応じて増額することとしております。

2026年3月期の**配当予想**は、年間配当金は１株につき**108円**（前年比 8円増）としております。

加えて、2026年３月期は **53万8千株、21億9千９百万円の自社株買い**を実施しました。

（4）中期３か年事業計画（Ｐ.24）

中期３か年事業計画（2024年度～26年度）の最終年度の数値目標の見直しを行いました。

	（当初の目標）		（2025年5月開示）		（今回見直し後）
売上高	810億円	→	910億円	→	**1,000億円**
経常利益	60億円	→	105億円	→	**120億円**

	（当初の目標）		（今回見直し後）
ROE	10%以上	→	**15%以上**
PBR	1.0倍以上	→	**2.0倍以上**

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

1 事業環境について

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

事業環境（設備投資動向）

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 日本国内の設備投資状況は、通信・情報 の AI 計算基盤構築 や 自動車 の 電動化投資 などにより、 3 年連続で増加。
- 2025年度は前年比 14.3 %増 となり、計画時点としては４年ぶりに20%を下回ったものの、米国の関税強化など先行き不透明感がある中でも二桁増を維持。

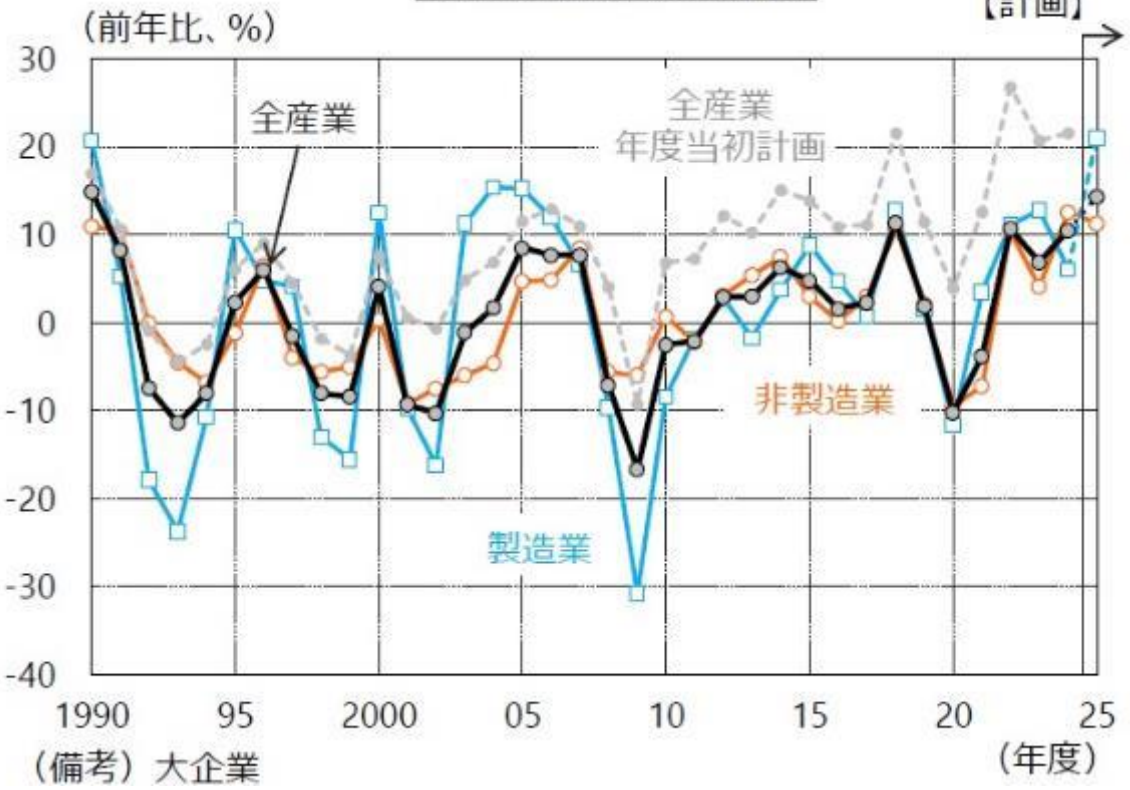
【 2024・2025年度　設備投資動向 】

2024･2025年度　国内設備投資動向

（前年比、%）	2024年度 実績		2025年度 計画
	23-24共通 1,527社	昨年時点の計画	24-25共通 1,607社
全産業	10.5	(21.6)	14.3
（除電力）	9.6	(19.7)	15.0
製造業	6.1	(24.7)	21.0
非製造業	12.6	(20.0)	11.3
（除電力）	11.7	(16.7)	11.7

（備考）大企業

国内設備投資の増減率



（備考）大企業

出所：日本政策投資銀行「2024年度設備投資計画調査結果概要」 2025年8月4日より

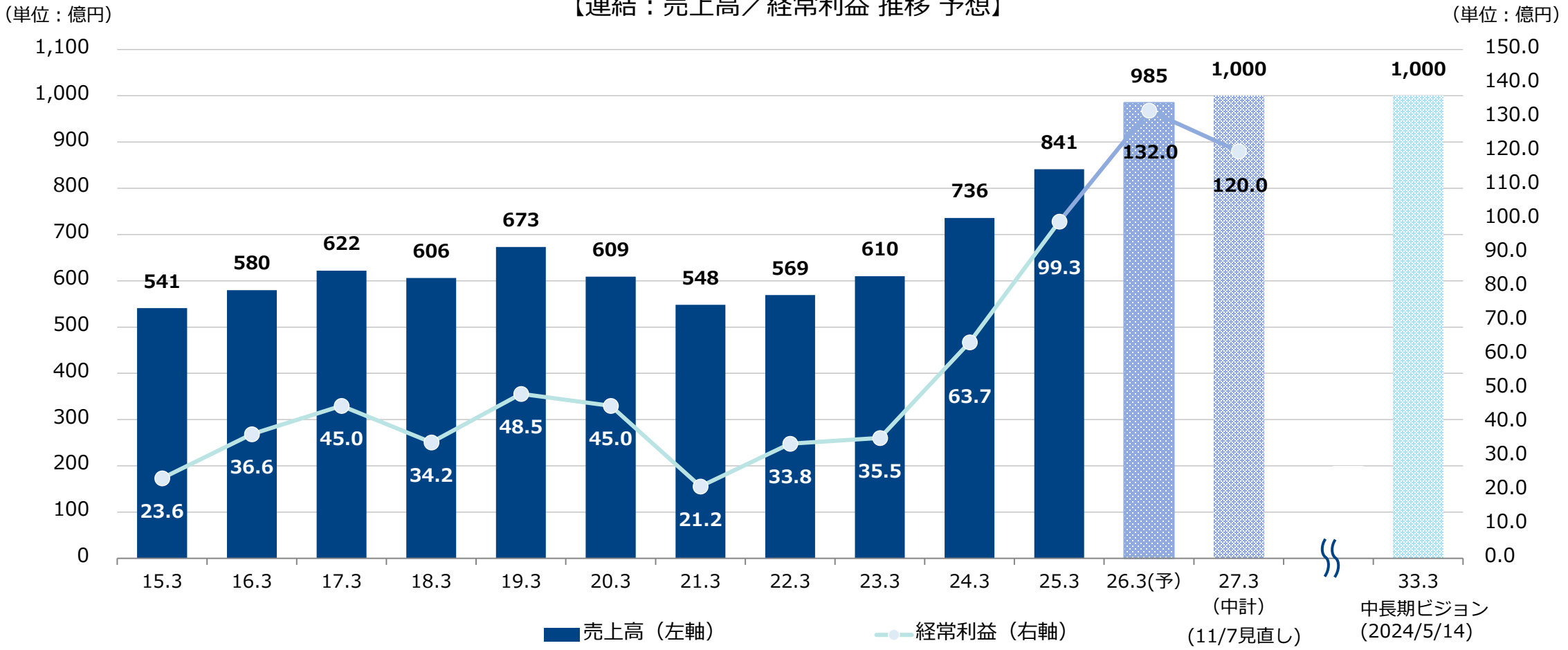
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

業績推移・予想　経営計画

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 近年は米中の経済安全保障の影響から、製造業のサプライチェーンが見直され、国内への設備投資の需要が増加しています。
- 今後の設備投資動向は世界の経済情勢など先行き不透明な部分もありますが、一定の需要は継続すると考えられ、中期３か年事業計画（２７年３月期）、中長期経営ビジョン『 TECHNO RYOWA 2032 （３３年３月期） 』の目標達成は可能であると考えます。

【連結：売上高／経常利益 推移 予想】



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

四半期別業績（連結）

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

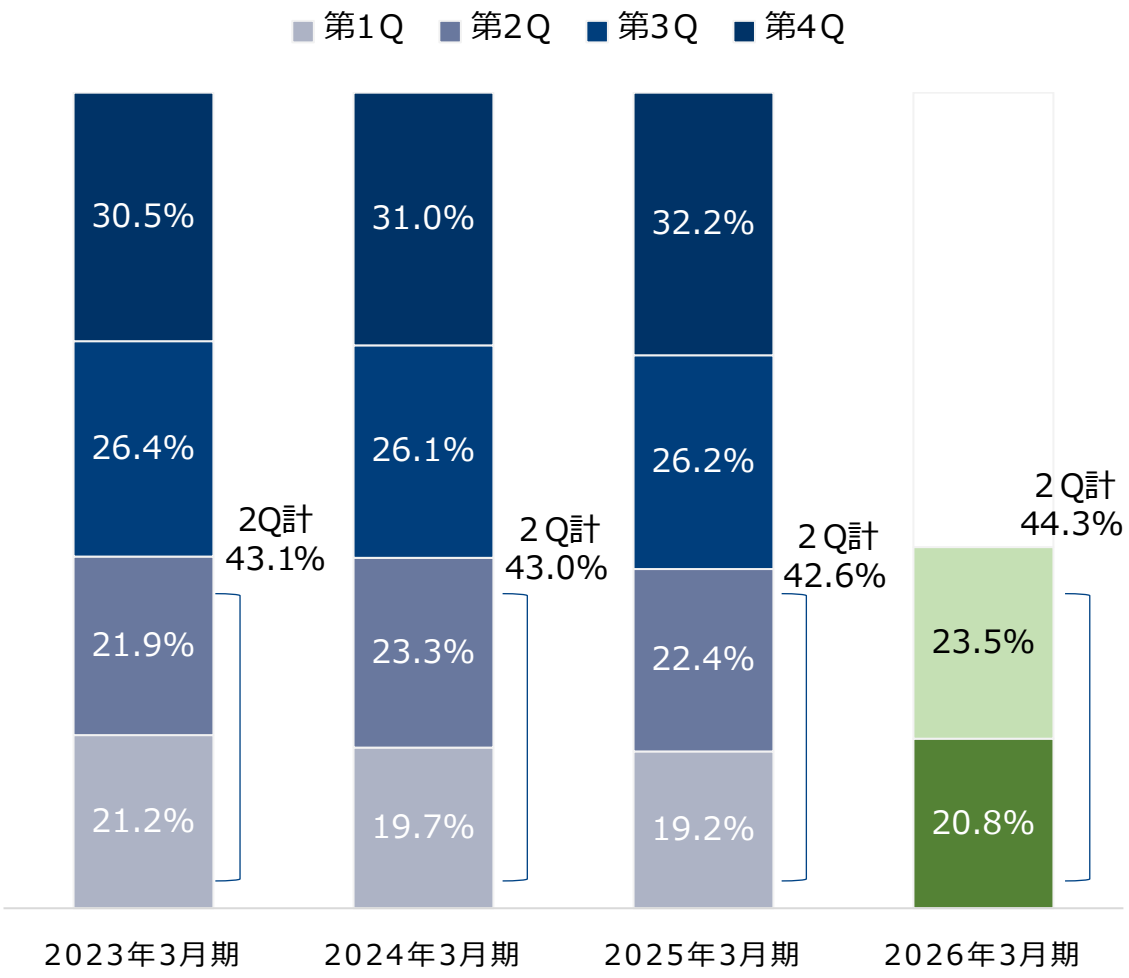
◆ 建設業には４Qに売上が増える影響があり、当社にもその傾向があります。受注に関しては四半期での傾向はありません。

（単位：百万円）	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期	
	1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)	3Q (10月～12月)	4Q (1月～3月)	1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)	3Q (10月～12月)	4Q (1月～3月)	1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)	3Q (10月～12月)	4Q (1月～3月)	1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)
受注高	14,776	30,217	16,669	11,896	33,648	16,969	16,786	15,392	40,898	20,575	20,268	21,302	33,326	22,718
売上高	12,960	13,349	16,133	18,587	14,513	17,158	19,197	22,818	16,184	18,839	22,047	27,120	20,479	23,139
売上総利益	2,188	1,844	2,391	3,114	2,161	2,579	3,238	4,708	2,502	3,405	5,008	6,508	4,484	6,132
売上総利益率（%）	16.9	13.8	14.8	16.8	14.9	15.0	16.9	20.6	15.5	18.1	22.7	24.0	21.9	26.5
販売費および一般管理費	1,563	1,565	1,577	1,657	1,629	1,687	1,727	1,851	1,804	1,888	1,981	2,122	2,143	2,115
営業利益	625	279	814	1,456	531	891	1,511	2,857	698	1,517	3,028	4,386	2,340	4,016
営業利益率（%）	4.8	2.1	5.0	7.8	3.7	5.2	7.9	12.5	4.3	8.1	13.7	16.2	11.4	17.4
経常利益	847	361	771	1,577	812	1,057	1,550	2,954	879	1,482	3,233	4,341	2,499	4,077
特別損益（△は損）	0	△8	0	0	0	0	0	116	38	63	10	73	0	91
親会社株主に帰属する当期純利益	564	222	501	1,050	530	705	1,048	2,221	612	1,066	2,217	3,361	1,694	2,851

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

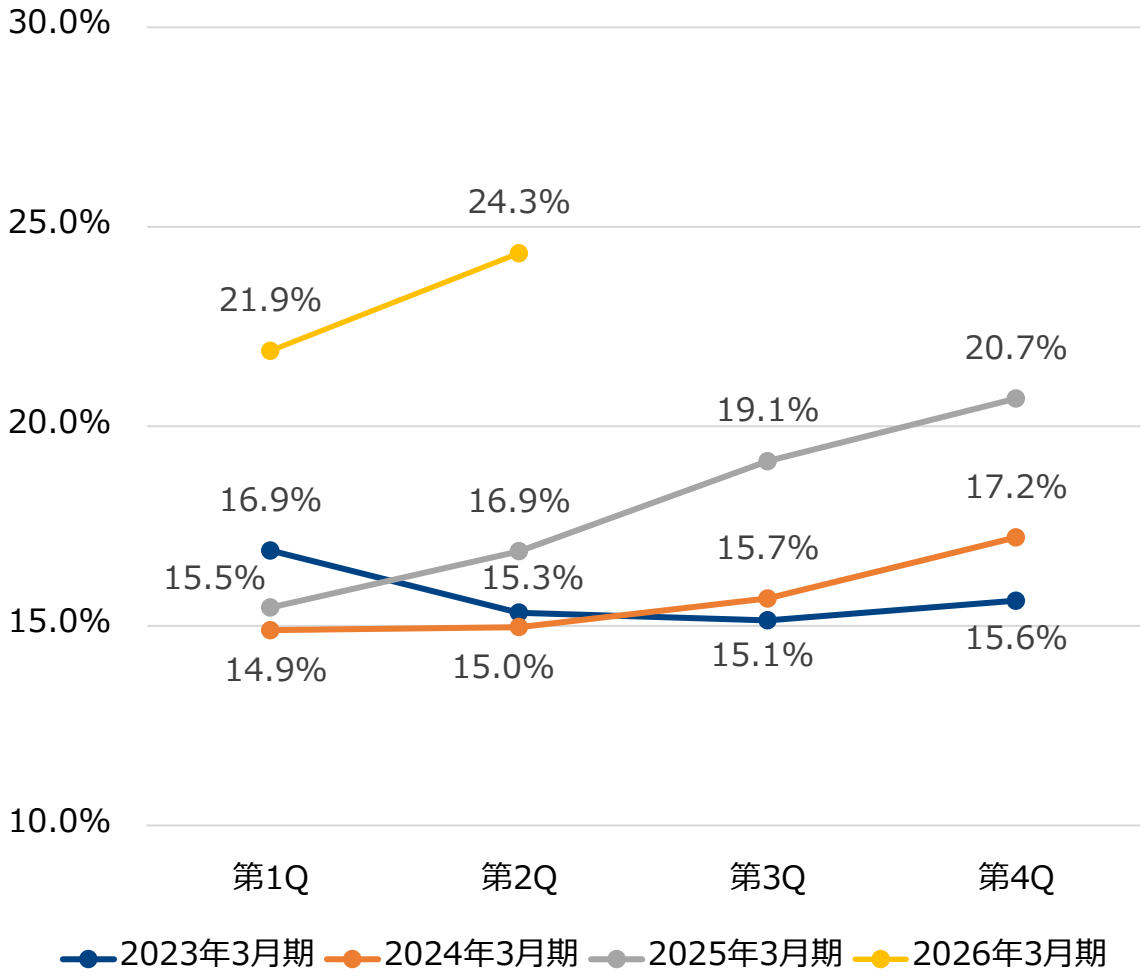
四半期別業績（連結）

四半期別　売上高進捗率



※2026年3月期の進捗率は、通期予想(2025年9月30日公表）の売上高を基準に算出しています。

四半期毎　売上総利益率推移

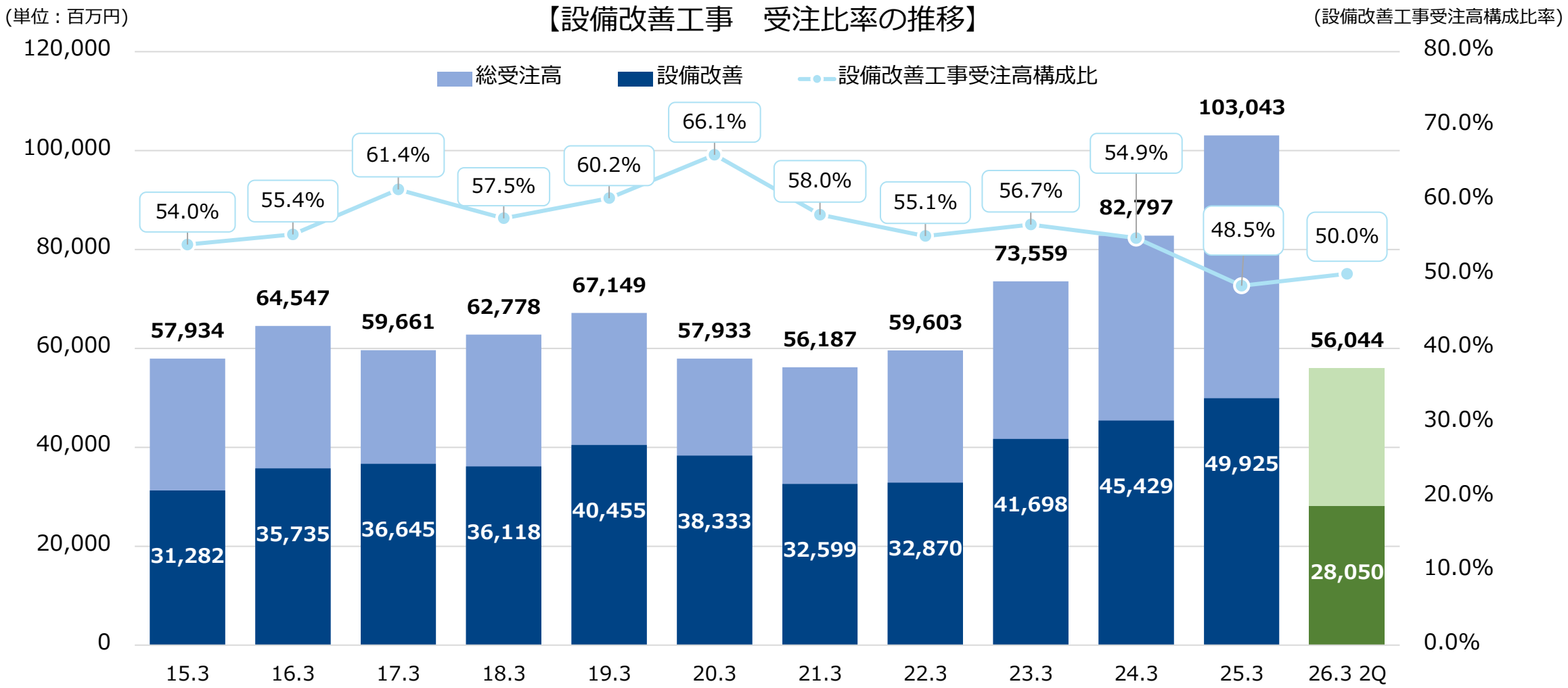


Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

設備改善工事　受注比率の推移

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 設備改善（改修）工事比率は概ね50%強～60%で推移しています。
当社はメンテナンス部門があり、設備改善工事は毎期一定量の受注があることも要因です。



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

◆参考資料　（単体）年度別・産業設備工事の業種別 受注の推移

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

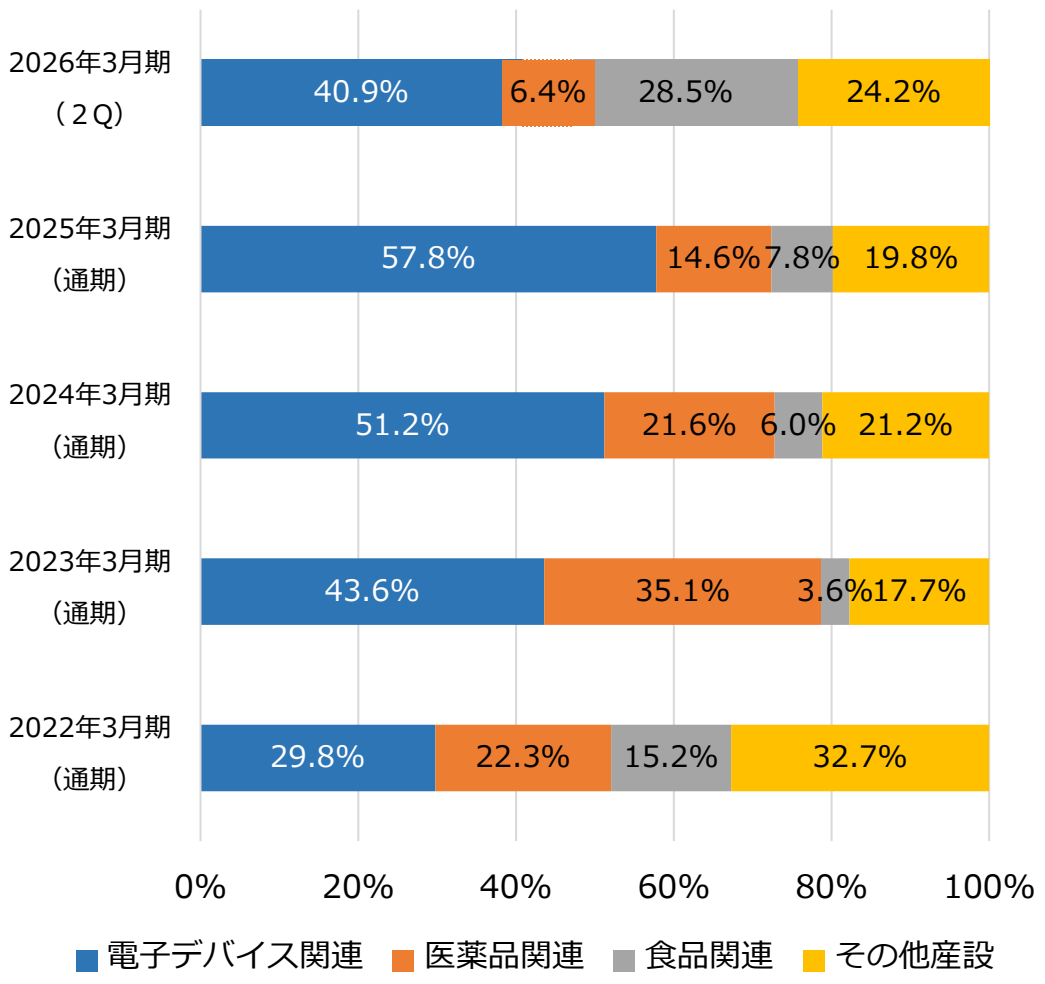
（単位：億円）

業種別 受注高

			2023年3月期 通 期	2024年3月期 通 期	2025年3月期 通 期	2026年3月期 2 Q
産業設備工事	電子デバイス関連	受注高	157	218	308	133
		対前年増減額	68	61	90	–
		同　増減率	78.2%	38.9%	41.4%	–
	医薬品関連	受注高	126	91	78	20
		対前年増減額	60	△34	△13	–
		同　増減率	91.3%	△27.3%	△15.2%	–
	食品関連	受注高	13	25	41	93
		対前年増減額	△32	12	15	–
		同　増減率	△71.1%	97.5%	62.1%	–
	その他	受注高	63	90	105	79
		対前年増減額	△33	26	15	–
		同　増減率	△34.2%	41.2%	17.3%	–
	合　計	受注高	360	426	534	326
		対前年増減額	64	65	108	–
		同　増減率	21.6%	18.2%	25.3%	–
一般ビル設備工事		受注高	205	207	256	129
		対前年増減額	66	1	48	–
		同　増減率	48.2%	0.7%	23.7%	–
総受注高		受注高	566	633	790	455
		対前年増減額	131	67	156	–
		同　増減率	30.1%	11.9%	24.8%	–

※（単体）業種別受注高は、契約金額2千万円（2023年8月までは1千万円）以上を対象に集計したものとなります。

業種別 受注割合



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

2 2026年３月期 第2四半期決算概要

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

セグメント別連結受注実績について

- 産業設備工事は、前期の大型工事受注の反動により、受注は379億円、前年同期比5.9%減少となりました。
- 一般ビル設備工事も、同様に前期官庁工事である大型工事受注の反動により、160億円、前年同期比16.2%減少、官公庁工事受注額は50億円、前年同期比57.6%減少となりました。
- 電気設備工事は13億円、前年同期比6.3%増加、冷熱機器販売事業は6億円、前年同期比4.9%減少となりました。

（単位：百万円）

				2025年３月期 第2四半期	2026年３月期 第2四半期		
				実績	実績	増減額	増減率
受注高	設備工事業	空調衛生設備工事業	産業設備工事	40,319	37,954	△2,364	△5.9%
			一般ビル設備工事	19,196	16,082	△3,113	△16.2%
		電気設備工事業		1,298	1,379	81	6.3%
	冷熱機器販売事業			660	628	△32	△4.9%
	合計			61,474	56,044	△5,429	△8.8%
	（うち、海外）			(153)	(401)	(248)	(162.1%)

空調衛生設備工事業の官庁民間別内訳	官公庁工事	11,986	5,084	△6,902	△57.6%
	民間工事	47,528	48,952	1,423	3.0%
	計	59,515	54,036	△5,478	△9.2%

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

連結損益計算書について

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 2026年3月期 第2四半期は、受注高については前期受注の大型物件の反動により減少、売上高は大型物件が順調に進捗したこと、及び高粗利案件の進捗により増収増益となりました。
- 売上高は436億円と前年同期比24.5%増加、営業利益は63億円と前年同期比187.0%増加、当期純利益は45億円と前年同期比170.8%増加となりました。また、受注高は560億円と前年同期比8.8%減少となりました。

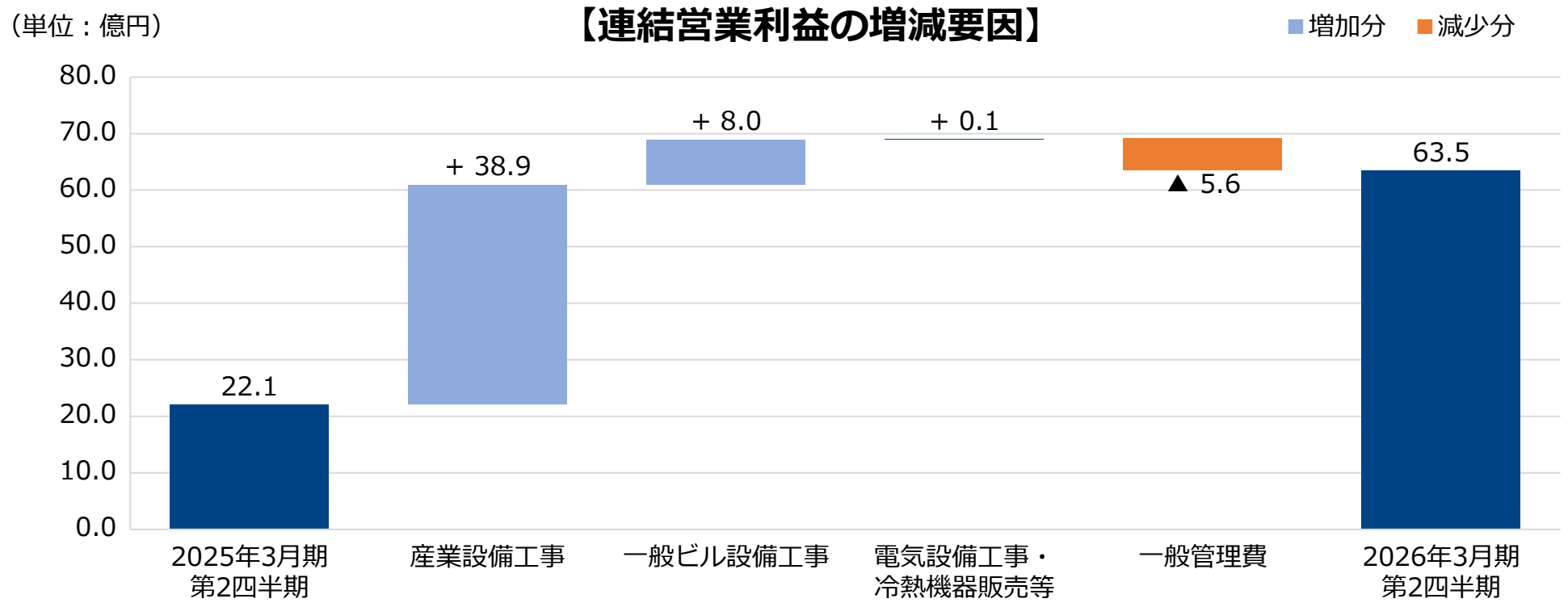
（単位：百万円）	2025年３月期　第2四半期		2026年３月期　第2四半期				2026年３月期	
	実績	利益率	実績	利益率	前年同期比	通期進捗率	通期予想	利益率
売上高	35,023	―	43,619	―	24.5%	44.3%	98,500	―
売上総利益	5,908	16.9%	10,616	24.3%	79.7%	48.0%	22,100	22.4%
営業利益	2,215	6.3%	6,357	14.6%	187.0%	49.7%	12,800	13.0%
経常利益	2,361	6.7%	6,576	15.1%	178.5%	49.8%	13,200	13.4%
親会社株主に帰属する中間（当期）純利益	1,678	4.8%	4,545	10.4%	170.8%	47.1%	9,650	9.8%
１株当たり当期純利益（円）	79.80	―	218.26	―	173.5%	47.0%	464.30	―
受注高	61,474		56,044	―	△8.8%	57.2%	98,000	―
手持工事高	83,943		88,873	―	5.9%	―	75,995	―

※2026年3月期の通期予想は、2025年9月30日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」によるものとなります。

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

2026年3月期 第2四半期営業利益の増減要因分析（セグメント別）

- 産業設備工事　売上高増加（前年同期比32.7%増）に伴う工事利益増加により、前年同期比38.9億円増加となりました。
- 一般ビル設備工事　売上高増加（前年同期比13.5%増）により、前年同期比8億円増加となりました。
- 電気設備工事・冷熱機器販売等　電気設備工事及び冷熱機器販売等は、ほぼ横ばい1千万円増加（前年同期比0.1%増）となりました。
- 一般管理費　ベースアップ等の処遇改善などによる人件費増加があり、前年同期比5.6億円増加となりました。



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

連結貸借対照表

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 流動資産は１億８千万円の減少とほぼ横ばいでした。
- 固定資産の増加の主な要因は、投資有価証券の評価損益によるものです。

（単位：百万円）

	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期	増減
資産の部			
流動資産	56,216	56,034	△182
現金及び預金	12,571	21,973	9,402
受取手形・電子記録債権・完成工事未収入金等	41,535	31,402	△10,133
未成工事支出金等	185	454	269
その他	1,928	2,203	275
貸倒引当金	△4	-	4
固定資産	23,947	25,499	1,552
有形固定資産	4,126	4,094	△32
無形固定資産	300	353	53
投資その他の資産	19,520	21,051	1,531
投資有価証券	10,231	11,808	1,576
退職給付に係る資産	7,145	7,178	33
その他	2,155	2,076	△78
貸倒引当金	△11	△11	0
資産合計	80,163	81,534	1,370

	2025年３月期	2026年3月期 第2四半期	増減
負債の部			
流動負債	23,863	22,479	△1,383
支払手形・電子記録債務・工事未払金等	14,849	11,024	△3,825
その他	9,014	11,455	2,441
固定負債	3,351	3,747	396
負債合計	27, 215	26,227	△987
純資産の部			
株主資本	47,235	48,522	1,287
資本金	2,746	2,746	-
資本剰余金	2,498	2,498	-
利益剰余金	42,259	45,744	3,484
自己株式	△269	△2,466	△2,197
その他の包括利益累計額	5,709	6,767	1,057
非支配株主持分	3	16	13
純資産合計	52,948	55,306	2,358
負債純資産合計	80,163	81,534	1,370

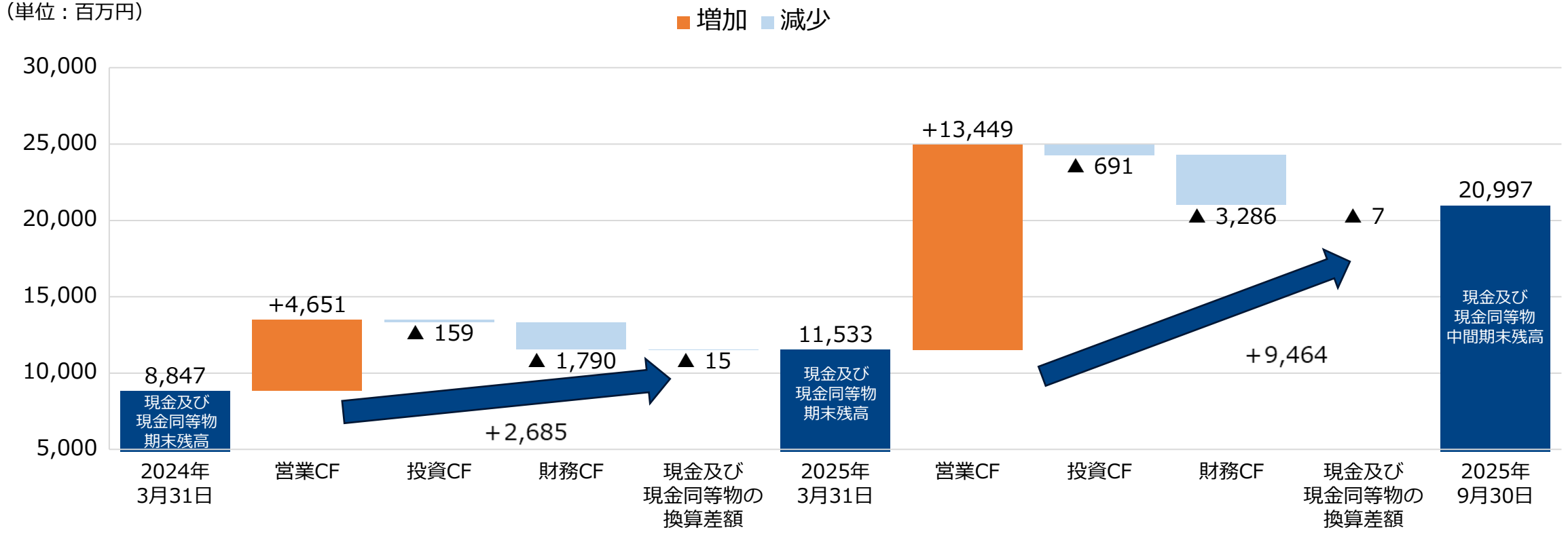
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

連結キャッシュ・フロー計算書

2026年3月期 第２四半期のキャッシュフローの概要は以下のとおりです。

- ◆ 営業活動によるキャッシュフロー：税金等調整前中間純利益6,668百万円及び売上債権の減少10,132百万円が資金の増加要因、仕入債務の減少3,825百万円が資金の減少要因
- ◆ 投資活動によるキャッシュフロー：投資有価証券の売却収入94百万円が資金の増加要因、有価証券の取得による支出499百万円が資金の減少要因
- ◆ 財務活動によるキャッシュフロー：自己株式取得による支出2,197百万円及び配当金の支払額1,058百万円が資金の減少要因

（単位：百万円）



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

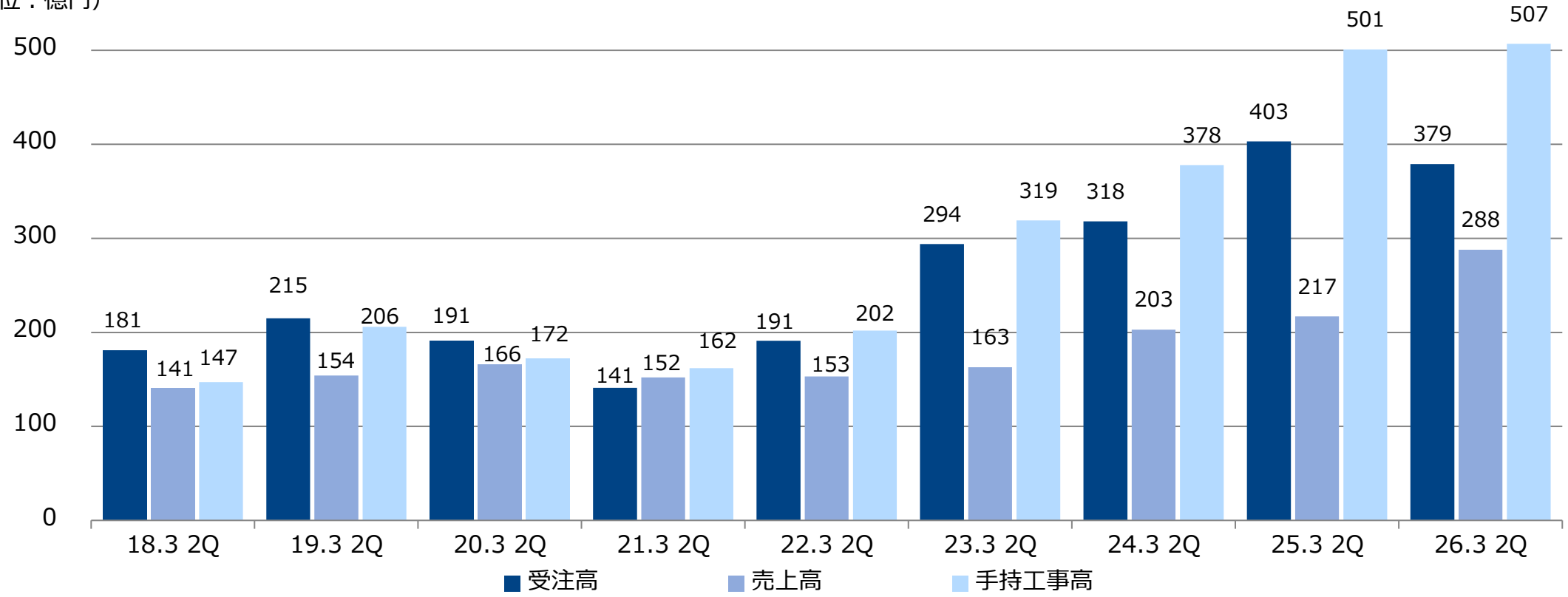
セグメント別動向-①産業設備工事

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 2026年３月期 第2四半期事業概況

- 受注高は、精密機器関連、食品工場などの工事の受注があり379億円、前年同期比5.9%減少しました。
- 売上高は、前期以前に受注した半導体関連の売上により288億円、前年同期比32.7%増加しました。
- 手持工事高は507億円、前年同期比1.1%増加とほぼ横ばいでした。

（単位：億円）



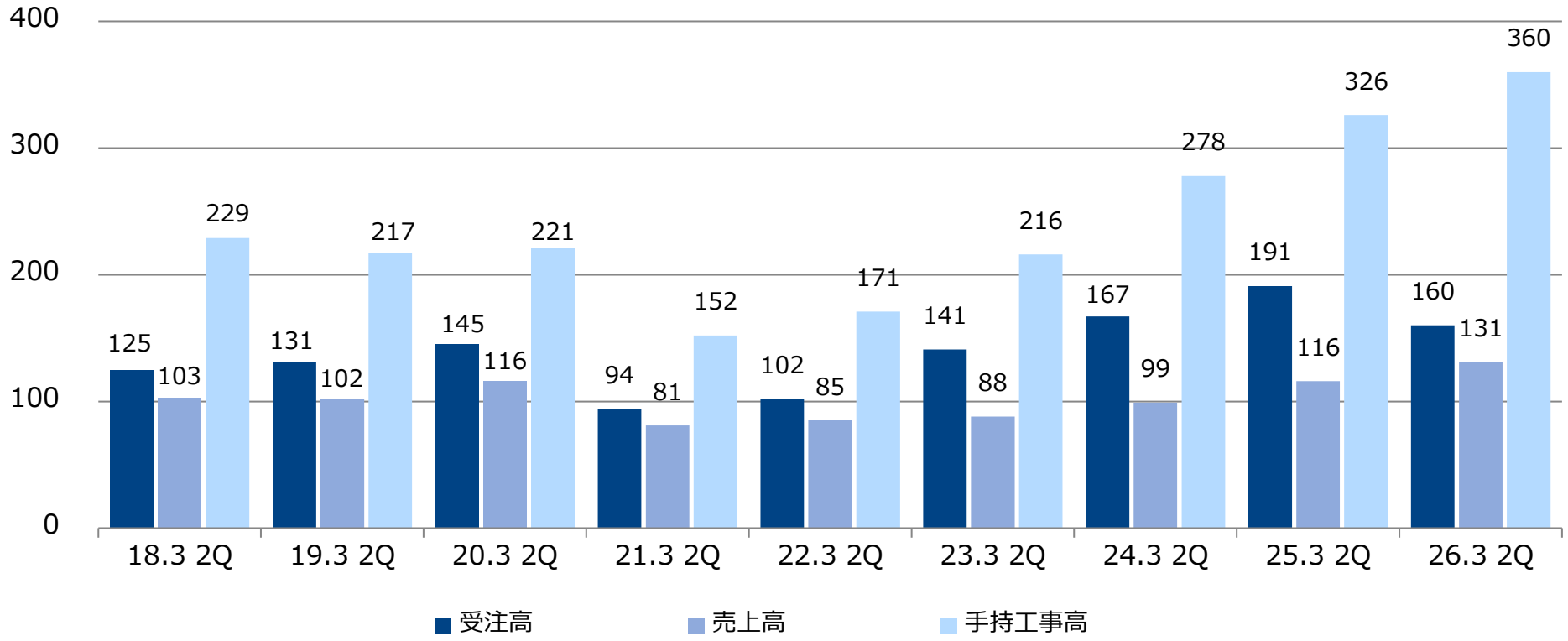
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

セグメント別動向-②一般ビル設備工事

◆ 2026年３月期 第2四半期事業概況

- 受注高は、東京都港区の庁舎や、地域冷暖房工事などの受注があり、160億円、前年同期比16.2%減少しました。
- 売上高は、病院、防衛施設などの工事の進行基準売上があり、131億円、前年同期比13.5%増加しました。
- 手持工事高は、360億円、前年同期比10.3%増加しました。

（単位：億円）



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

セグメント別動向-③電気設備工事・冷熱機器販売等

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 2026年３月期 第2四半期事業概況

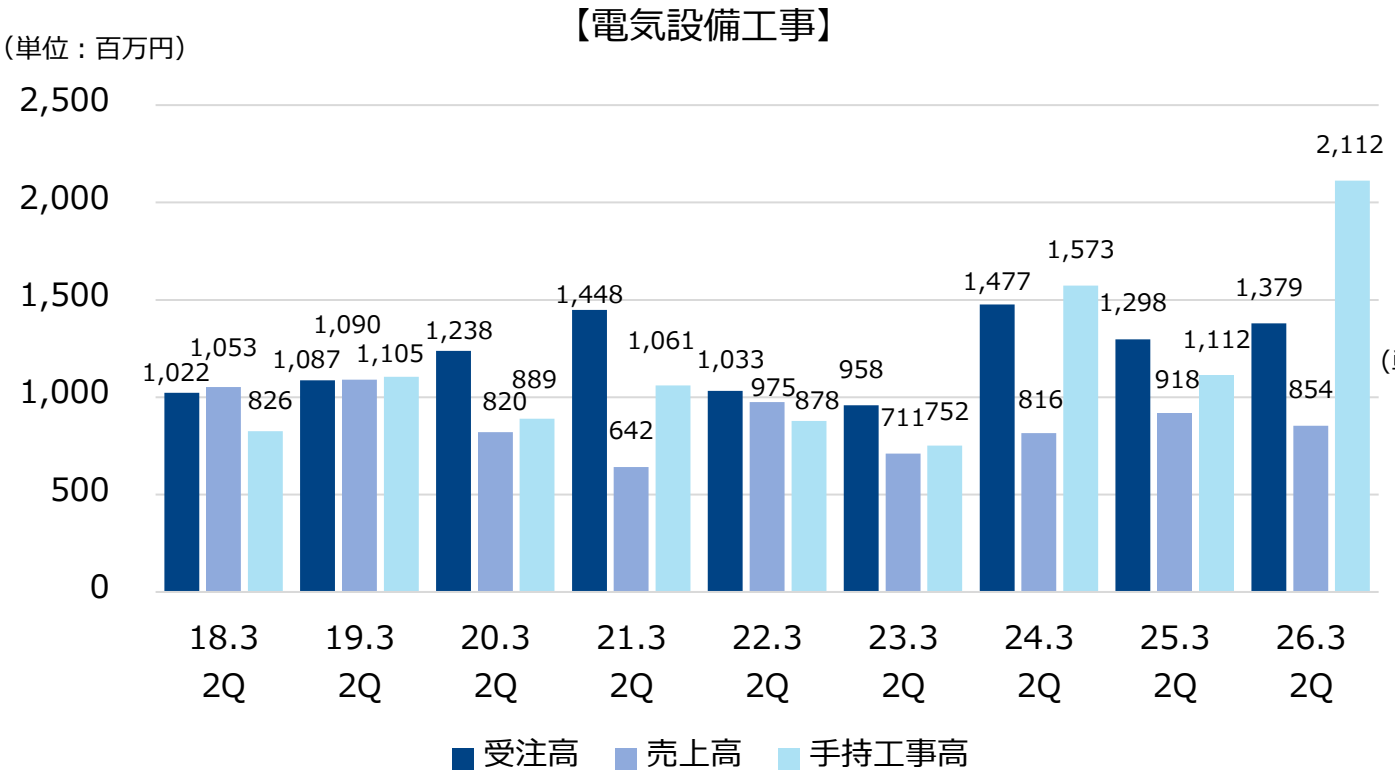
【電気設備工事】

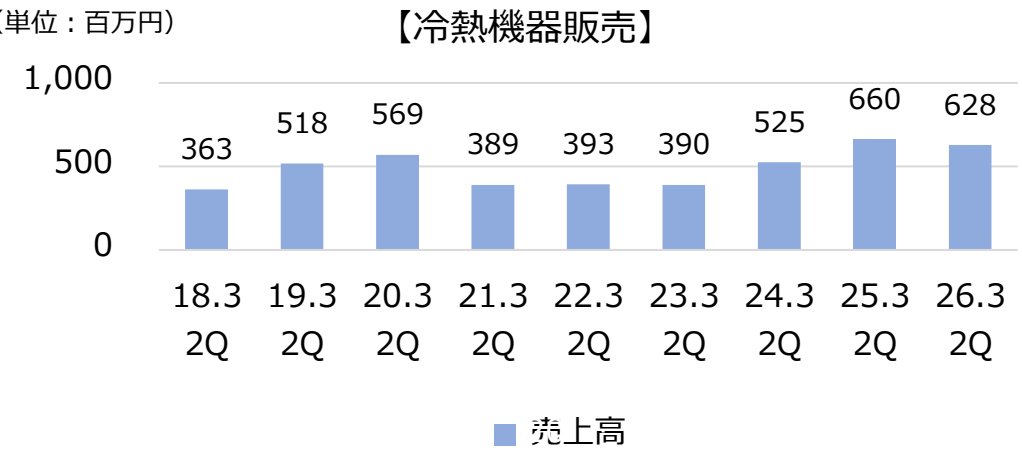
- 受注高は、13.7億円と前年同期比6.3%増加、売上高は8.5億円、前年同期比7.0%減少しました。
- 手持工事高は、21.1億円、前年同期比89.8%増加しました。

【冷熱機器販売】

- 売上高は6.2億円、前年同期比4.9%減少しました。

【パッケージエアコン】





Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

完成工事の紹介

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

株式会社リガク山梨　新工場

概 要

完成年月	2025年 5月
施工地	山梨県北杜市
建物用途	工場
階数	地上2階
工事範囲	空調・衛生設備工事

株式会社堀場エステック 福知山テクノロジーセンター新棟

概 要

完成年月	2025年 5月
施工地	京都府福知山市
建物用途	研究所 / 開発センター
延床面積	4,335.22㎡
階数	地上2階
工事範囲	空調・衛生・消火・自動制御設備工事

市立宇和島病院エネルギーセンター

概 要

完成年月	2025年 6月
施工地	愛媛県宇和島市
建物用途	病院エネルギーセンター
延床面積	3,762.84㎡
階数	地上4階、塔屋1階
工事範囲	熱源・空調・衛生・消火・自動制御 医療ガス設備工事

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

3 2026年3月期 通期業績予想

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

2026年3月期業績予想 連結損益計算書

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 売上高については、期首の手持ち工事の状況、追加工事を含む受注環境が堅調であり、工事の進捗も順調であることから、17%増の985億円を予想しています。
- 営業利益は、資材や労務費の増加はあるものの、大型工事の進捗予想から32.9%増の128億円。経常利益は同様に32.9%増の132億円を予想しています。
- 受注高に関しては、前期の大型工事受注の反動から、4.9%減少の980億円を予想しています。

（単位：百万円）	2025年３月期	2026年３月期	
	実績	業績予想	前年比
売上高	84,190	98,500	17.0%
売上総利益	17,425	22,100	26.8%
営業利益	9,629	12,800	32.9%
経常利益	9,935	13,200	32.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,256	9,650	33.0%
１株当たり当期純利益（円）	344.90	464.30	34.6%
受注高	103,043	98,000	△4.9%

※2026年3月期の通期予想は、2025年9月30日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」によるものとなります。

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

連結売上高・営業利益予想の増減要因分析（セグメント別）

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 売上高予想の内訳

産業設備工事	650億円（対前年　89.0億円増）
一般ビル設備工事	298億円（対前年　55.4億円増）
電気設備工事・冷熱機器販売等	37億円（対前年　1.3億円減）
合計	985億円（対前年143.1億円増）

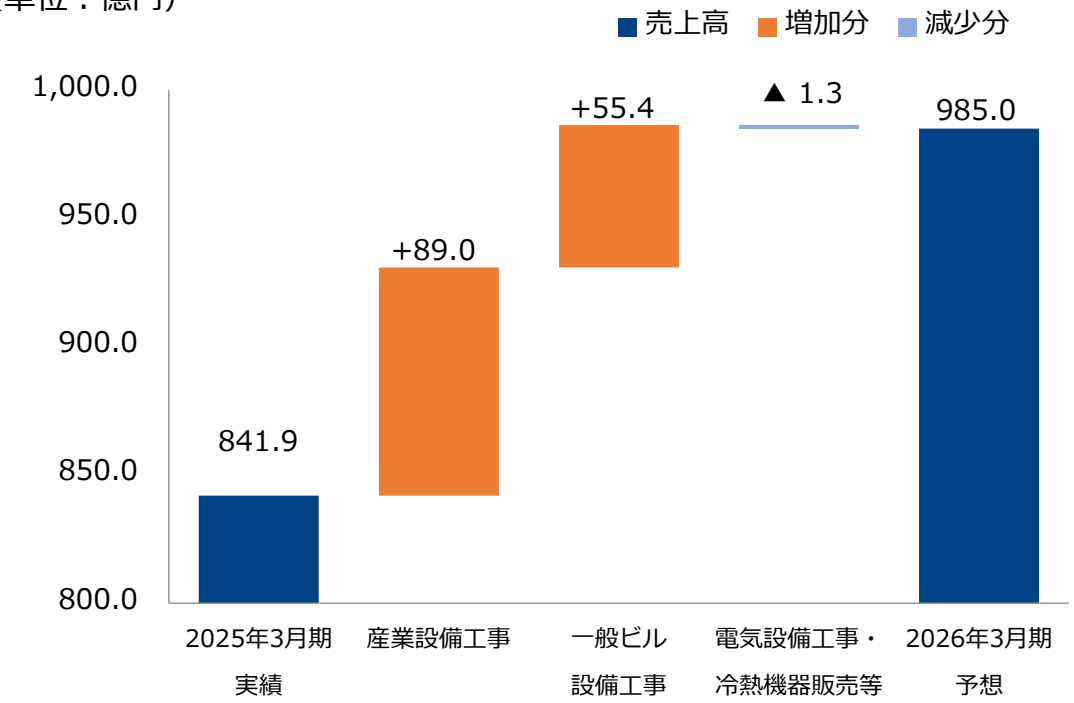
◆ 営業利益予想の内訳

産業設備工事	154億円（対前年34.9億円増）
一般ビル設備工事	60億円（対前年12.4億円増）
電気設備工事・冷熱機器販売等	7億円（対前年　0.6億円減）
一般管理費※	93億円（対前年15.0億円減）
合計	128億円（対前年31.7億円増）

※人件費やDX費用など一般管理費増が、営業利益減に影響しています。

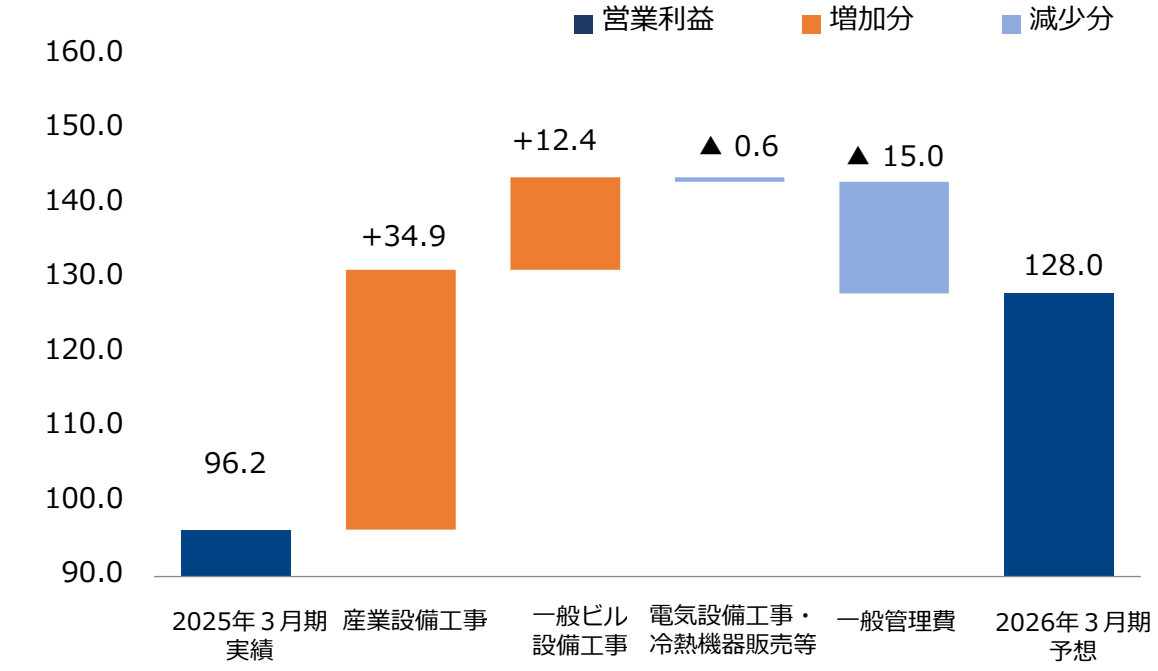
【連結売上高の増減要因】

（単位：億円）



【連結営業利益の増減要因】

（単位：億円）

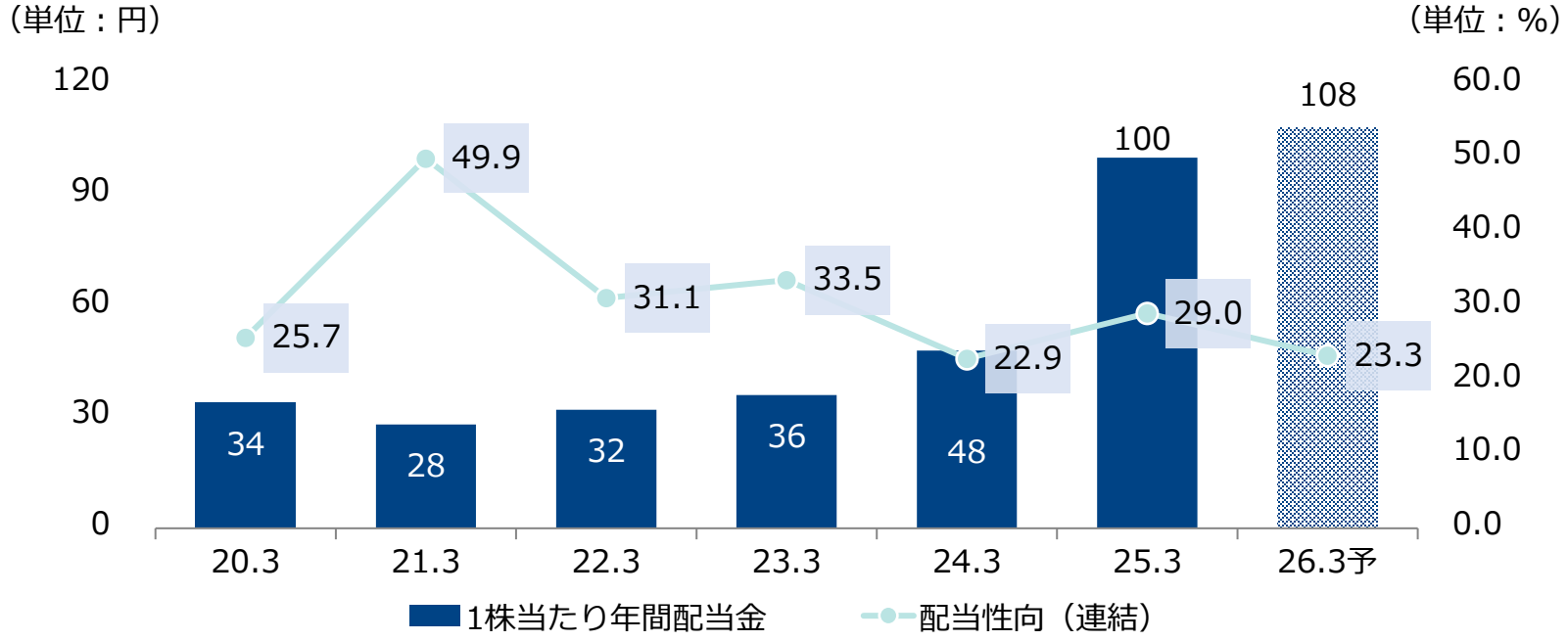


Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

株主への還元について

◆ 基本方針

- 当社は、株主への利益還元を経営の最重要課題の一つと認識し、経営基盤の充実を図りつつ、 期間収益及び配当性向を勘案し、安定して配当を維持することを基本方針としています。
- この基本方針に則り、中長期経営ビジョン『TECHNO RYOWA 2032』（2024年度～32年度）の期間中においては、1株当たりの年間配当金について前年度の年間配当金を下回らないこととし、利益の成長に応じて増額することとします。2026年3月期の配当予想は、中間配当金を1株につき50円、期末配当金を1株につき58円とし、年間配当金は1株につき108円を予定しております。
- 株主還元策のひとつとして、『TECHNO RYOWA 2032』の期間中に自社株買いならびに自己株式の消却を機動的に実施します。



2020年3月期
- 創立70周年記念配当1株につき2円を実施

2021年3月期
- 自己株式の取得（378千株/341百万円）を実施

2024年3月期
- 自己株式の取得（731千株/999百万円）を実施

2025年3月期
- 自己株式を消却（1,660千株）

2026年3月期
- 自己株式の取得（538千株/2,199百万円）を実施

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

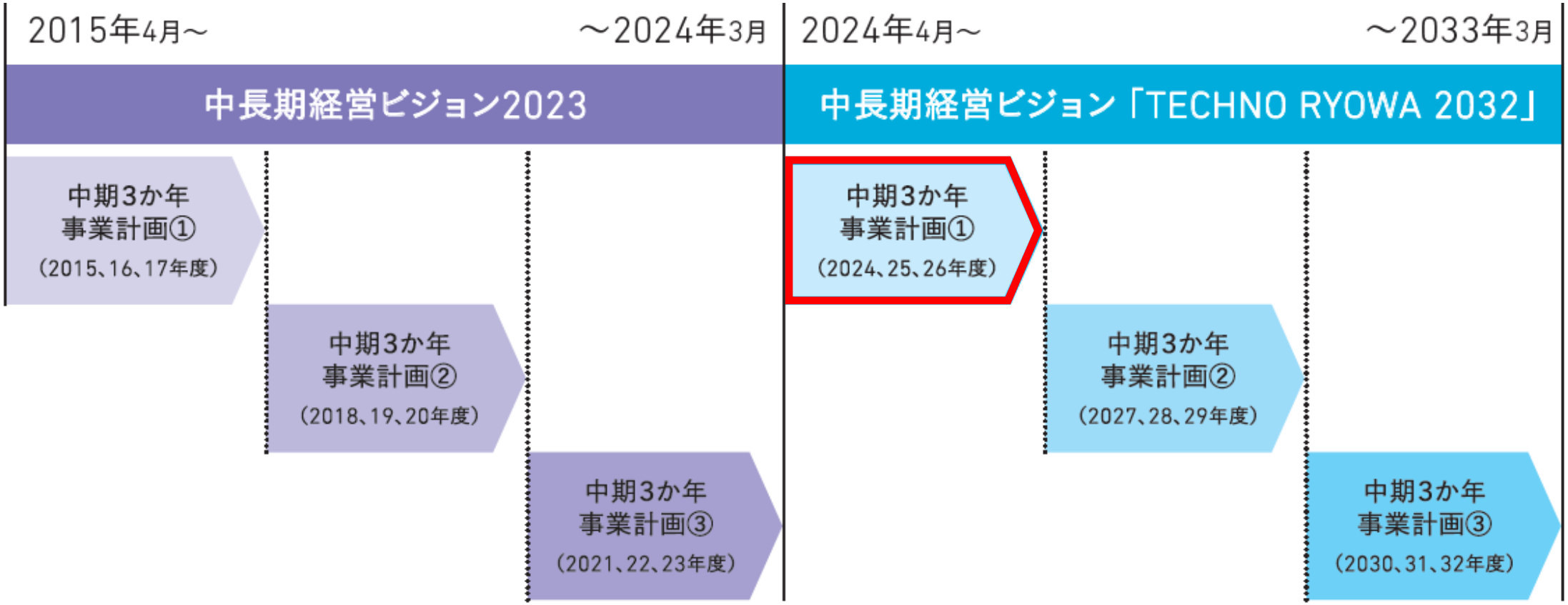
4 中期３か年事業計画 進捗状況

2024年度（76期）～2026年度（78期）

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

中期３か年事業計画の位置づけ

◆ 当社では、9年間を一区切りとした中長期経営ビジョンを掲げ、その下で3年ごとに中期3か年事業計画を策定しています。2024年3月末で「中長期経営ビジョン2023」が終了し、新たに「TECHNO RYOWA 2032」がスタートしており、今回の中期3か年事業計画（2024～26年度）はその最初の3年間の事業計画となります。



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

中期３か年事業計画 基本方針

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 中期3か年事業計画（2024～26年度）では、「TECHNO RYOWA 2032」の下で次の4つの基本方針を定めて取り組みを進めています。

1 成長戦略の推進

急激な規模の拡大は求めずに着実に成長する。バランスのとれた受注を推進するとともに将来への布石を打つ。

2 人的資本への投資の促進

教育制度の見直しと充実を図り、社員教育と採用に重点的に投資する。

3 働き方改革の総仕上げ

品質の維持向上と安全の確保、業務の効率化と生産性の向上を図る。DX関連に積極的に投資するとともに全員が業務の見直しと改革に取り組む。

4 ESGへの取り組みの深化

「テクノ菱和のマテリアリティ（重要課題）」のKPIの目標達成に邁進する。

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

中期３か年事業計画の数値目標

- 中期3か年事業計画（2024～26年度）の最終年度となる2026年度（2027年3月期）の数値目標について、2024年度の最終実績並びに2025年度の業績予想を勘案し、本年５月13日に目標数値の一部を見直しました。その後、９月30日に業績予想の上方修正を公表したことから、11月7日にROEとPBRも含めた成長戦略の目標数値の全ての見直しを実施いたしました。
- 世界経済の情勢や事業環境の変化のスピードから、2026年度の業績見通しについて決して楽観視することはできませんが、中長期経営ビジョン「TECHNO RYOWA ２０３２」において成長戦略を標榜する当社としては、さらなる成長を目指してまいります。
- 中長期経営ビジョン「TECHNO RYOWA ２０３２」の数値目標については、別途見直しを行ったうえであらためてお知らせする予定としております。

実績と業績予想（連結）

	2025年3月期（2024年度）最終実績	2026年3月期（2025年度）5/13業績予想	2026年3月期（2025年度）9/30修正予想
売上高	841億円	900億円	985億円
営業利益	96億円	101億円	128億円
経常利益	99億円	104億円	132億円
当期純利益	72億円	73億円	96億円

最終年度（2026年度） 数値目標（連結）

	2027年3月期目標（2026年度）（5/13開示）	2027年3月期目標（2026年度）（11/7見直し後）
売上高	910億円	1,000億円
経常利益	105億円	120億円
ROE	10%以上	15%以上
PBR	1.0倍以上	2.0倍以上

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

中期３か年事業計画の投資計画 取組状況

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 中期3か年事業計画（2024～26年度）の投資計画の取組状況は以下のとおりです。
人的投資、研究開発投資、DX関連投資のいずれも当初の計画を上回るペースで進捗しています。

2024年度（76期）～26年度（78期）投資計画（累計）

人的投資：3億円　研究開発投資：10億円　DX関連投資：5億円　を目指す

［2025年3月期実績］

● 人的投資［２.６億円］
・主な取り組み内容
新入社員初級教育、初級技術者実務研修、一級二級管工事施工管理技士検定試験対策研修、各種手当の拡充

● 研究開発投資［４.３億円］
・主な取り組み内容
可視化技術の開発、クリーン分野における差別化技術の開発、サーバーレス環境での設備運用情報管理システム

● DX関連投資［３.３億円］
・主な取り組み内容
工程管理ツール・その他ソフトの導入、社内システムの刷新、ERPシステムの刷新準備など

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

中期３か年事業計画 ESG 非財務項目（テクノ菱和のマテリアリティ）数値目標

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 中期3か年事業計画（2024～26年度）の非財務項目の数値目標は、「TECHNO RYOWA 2032」の目標達成までの道のりの中で2026年度（78期）までに目指すものを示しています。**（青文字は2025年3月期の実績）**

非財務項目 2026年度までの数値目標

E（環境）

GHG排出量（Scope1,2）※
　2022年度（74期）比　⇒　11%削減　**(→ 2.8%増加×)**

GHG排出量（Scope3）※　⇒　算定開始　**(→ 算定開始済◎)**

G（ガバナンス）

役員報酬の見直し

⇒ 中長期インセンティブとなる株式報酬の導入　**(→ 導入済◎)**

政策保有株式 純資産保有比率※ ⇒ 20%未満　**(→ 18.2%◎)**

※は連結、その他は単体

S（社会）

女性管理職比率	： 5%以上	**(→ 4.3% ○)**
女性技術系職員比率	：10%以上	**(→ 9.5% ○)**
有給休暇取得率	：60%以上	**(→ 64% ◎)**
新入社員3年離職率	：15%未満	**(→ 8.3% ◎)**
男性社員育児休業取得率	：50%以上	**(→ 10% △)**

を目指す

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

5 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

◆ 2023年3月31日、東京証券取引所は「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する要請を発表しました。この要請を受けて、当社のPBR（株価純資産倍率）が1倍割れとなっている状況について、資本コストや市場の評価に関する現状分析と改善に向けた対応策について検討を進めてきました。

この結果を踏まえて中期3か年事業計画（2024～26年度）の中で「市場の評価について（取り組むべき課題）」および「対処方針」について示しています。

● 資本コストについて

施工案件の受注時の予想粗利について資本コストを上回る基準を設定し、利益の確保に注力。
政策保有株式について、取得に至る経緯、取引関係、取得価額、時価、配当金、受注の状況等を踏まえて資本コストと対比した上で保有の継続の可否について取締役会において年1回以上検討。更なる見直しを実施。

● 市場の評価について（取り組むべき課題）

・慎重かつ保守的な利益予想
・株主還元
・知名度
・政策保有株式の固定的な継続保有

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

取り組み状況

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

● 取り組み状況

・2024年３月期から業績予想の方針を【慎重、保守的】から【精緻、積極的】に転換。今後も継続。

・『TECHNO RYOWA 2032』の期間中（2024~2032年度）は**１株当たりの年間配当金**について**前年度の年間配当金**を**下回らない**こととし、**利益の成長**に応じて**増額**。
この方針に従い、2026年3月期は増収、増益の業績予想に伴い**増配**の見込み。

・株主還元策のひとつとして『TECHNO RYOWA 2032』の期間中に**自社株買い**並びに**自己株式の消却**を機動的に実施。

・役員報酬の見直しを実施し、中長期インセンティブに繋がる**株式報酬制度**を導入。

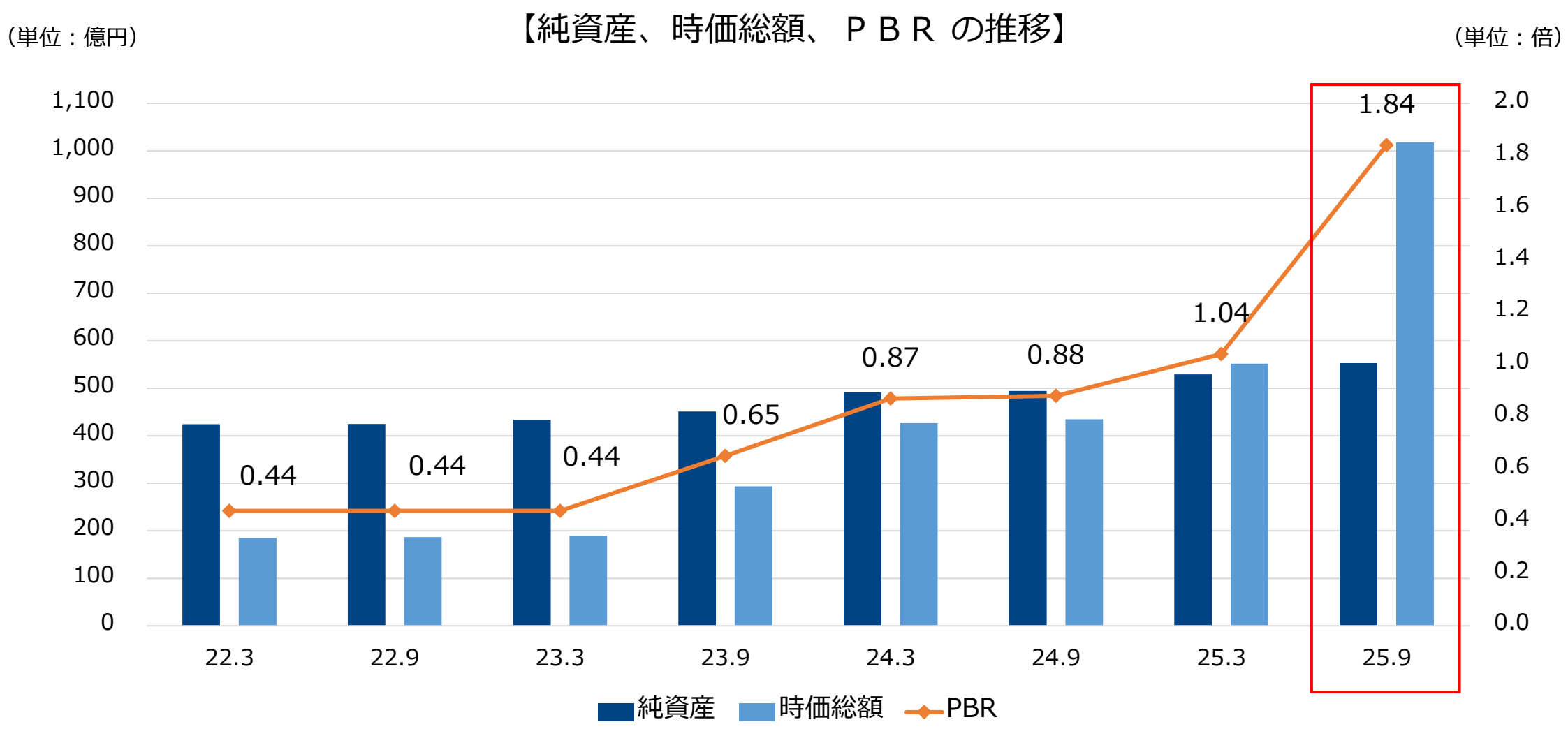
・知名度アップのため、広報宣伝活動を段階的に拡大。

・**政策保有株式**について2024年3月期から段階的な削減に着手。
『TECHNO RYOWA 2032』および中期３か年事業計画において、政策保有株式の削減に向けて純資産保有比率と売却累計額に**数値目標**を設定。

・2025年3月期は政策保有株式**248百万円**を**売却**。2026年３月期上半期は**94百万円**を**売却**。

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

現状分析：市場評価の変遷



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

6 トピックス

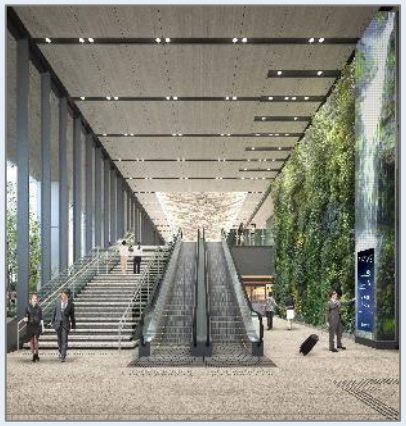
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

本社および東京本店の移転に関するお知らせ

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

- 当社は、業容の拡大に伴う従業員の増加への対応や、働きやすいオフィス環境を整備する目的で、本社と東京本店を移転いたします。従業員のエンゲージメントを高めるとともに、優秀な人材の確保・定着を促進し、企業の持続的かつ安定的な成長を目指してまいります。
- ミタマチテラスは、ZEBReady認証を取得した環境に配慮した次世代ビルです。今回の移転によりサステナビリティへの貢献や、従業員の環境意識の向上も目的としております。

- **移転先**
  東京都港区芝五丁目34番２号
  ミタマチテラス　12階、13階、14階
- **移転時期**
  2026年5月予定



SS Co., Ltd. Naohiro Ogura

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

7 参考資料

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

価値創造プロセス

インプット（2024年度実績、または2025年3月末現在のデータ）

財務資本

総資産	80,163百万円
自己資本	52,945百万円
自己資本比率	66.0%

製造資本

国内拠点	10拠点（営業所、サービスステーションを除く）
海外拠点	2拠点
R&Dセンター	1か所
連結子会社	4社

人的資本 ※単体数値

従業員数	940人
1人あたり資格数	7.04資格
1級管工事施工管理技士数	479人 ※

知的資本

研究開発費	433百万円

社会関係資本 ※単体数値

顧客数	1,430社 ※
受注金額	103,043百万円
協力会社数	1,730社 ※
発注額	49,954百万円 ※

自然資本

電力使用量	2,886MWh
ガソリン使用量	384kL

協力会社：取引実績のある安全衛生協力会加入会社
発注額：注文書累計額

事業活動

中長期経営ビジョン「TECHNO RYOWA 2032」

1【成長戦略】急な拡大は求めず、品質の高い仕事を一つひとつ積み上げて着実に成長するよう事業を展開する

2【投資戦略】社員教育と採用を含めた人的資本、研究開発、DX関連、ブランド力向上に積極的に投資する

3【ＥＳＧ】ESG経営を推進し、企業市民としての責務を果たすとともに広く社会に貢献する

中期3か年事業計画

成長戦略の推進 | 人的資本への投資の促進 | 働き方改革の総仕上げ | ESGへの取り組みの深化

アウトプット

2024年度成果

財務成果

完成工事高	82,829百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	7,256百万円
ROE	14.2%
配当性向	29.0%

非財務成果 ※単体数値

GHG排出量(Scope1,2)	2,229t-CO_2
提案CO_2削減量	3,630t-CO_2 ※
学会・セミナーでの省エネ関連技術発表	16件 ※
補償工事量の削減	29.4%減 ※

アウトカム

経営理念の実現に向けた企業価値の向上と「TECHNO RYOWA 2032」の達成に向けた成長

「空気と水のテクノロジー」を通じて
環境にやさしい生活空間の創造を目指す。

環境エンジニアリングを中核事業とし、
ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。

人材の育成・教育を重視し
働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

2032年度目標

成長

売上高	1,000億円
経常利益	70億円
ROE	10%以上
PBR	1.0倍以上
従業員数	1,000人以上

投資（累計）

人的投資	10億円
研究開発投資	30億円
DX関連投資	25億円
政策保有株式削減	50億円

注：成長戦略の数値目標については、次の「中期3か年事業計画（2027～29年度）」の策定時に見直すこととしています。

ESG ※は連結、その他は単体

GHG排出量(Scope1,2) ※	
2022年度（74期）比	27%削減
女性管理職比率	10%以上
女性技術系従業員比率	15%以上
有給休暇取得率	80%以上
新入社員3年離職率	15%未満
男性従業員育児休業取得率	100%
新卒採用者数（累計）	200人以上
1級管工事施工管理技士数	550人以上
政策保有株式純資産保有比率※	10%未満

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

「TECHNO RYOWA 2032」基本方針

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

「TECHNO RYOWA 2032」基本方針

1 【成長戦略】急な拡大は求めず、品質の高い仕事を一つひとつ積み上げて着実に成長するよう事業を展開する

2 【投資戦略】社員教育と採用を含めた人的資本、研究開発、ＤＸ関連、ブランド力向上に積極的に投資する

3 【ESG】 ＥＳＧ経営を推進し、企業市民としての責務を果たすとともに広く社会に貢献する

▲

【中長期経営ビジョン2023】基本方針

①規模の拡大だけに捉われず、当社で培った特色のある技術を駆使した事業展開を目指す

②継続的に成長するためお客様への付加価値を向上させ、リピート率の高い経営基盤を確立する

③ＡＳＥＡＮ市場を収益源の一つとして認識し、ターゲットを絞った市場へ積極的に投資する

④一人ひとりの社員を輝き成長させるための社員教育と、採用も含め人的資源へ継続的に投資する

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

「TECHNO RYOWA 2032」基本方針

空気と水のテクノロジー
テクノ菱和

基本方針 1 成長戦略

急な拡大は求めず、品質の高い仕事を一つひとつ積み上げて着実に成長するよう事業を展開する

1.急激な規模の拡大は目指さず、**品質の高い仕事**を積み上げて着実に成長する。

2.主力分野である産業用空調設備の設計施工を中心に、産業設備工事と一般ビル設備工事、官公庁工事と民間工事、国内案件と海外案件など、**バランスのとれた受注**を推進する。

3.品質の維持向上と安全の確保が重要な課題であることを認識し、技術系社員の**採用と教育**に重点を置く。

4.景気の冷え込みに備え、既存客先への継続営業だけではなく、**新規顧客**の開拓や休眠顧客の掘り起し、M&Aも含めた**新規事業領域**の探索に注力する。

5.**海外**に関して、インドネシアでの足場を固めるとともに、若手社員の海外ローテーション勤務の再開と海外からの研修生受け入れで**将来に向けた布石**を打つ。

成長戦略 2032年度までの数値目標（連結）

売上高	：1,000億円	
経常利益	：70億円	
ROE	：10%以上	
PBR	：1.0倍以上	
従業員数	：1,000人以上	を目指す

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

「TECHNO RYOWA 2032」基本方針

基本方針 2 投資戦略

社員教育と採用を含めた人的資本、研究開発、DX関連、ブランド力向上に積極的に投資する

1. 社員教育や採用活動に集中的に投資して**人的資本**の充実を図る。
2. お客様のニーズに応える最適な環境システムの提供を目指すため、**研究開発**に継続的に投資する。
3. 作業の効率化、人手不足の解消、基幹システムの刷新、保守・メンテナンス、セキュリティ強化を含め**DX関連**に継続的に投資する。
4. 知名度の向上がブランド力のアップ、採用活動の強化、投資家への訴求にもつながることを勘案し、2029年度の80周年に向けて**広告宣伝**への投資を強化する。
5. **政策保有株式**に関して、持合い先との関係性や保有の意義についてさらなる見直しを行い、段階的に削減する。

投資戦略 2032年度までの投資計画（累計）

人的投資	：10億円	
研究開発投資	：30億円	
DX関連投資	：25億円	
政策保有株式削減	：50億円	を目指す

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

「TECHNO RYOWA 2032」基本方針

基本方針 3 ESG

ESG経営を推進し、企業市民としての責務を果たすとともに広く社会に貢献する

非財務項目 2032年度までの数値目標

E(環境)

GHG排出量(Scope1,2)※

2022年度(74期)比 ⇒ 27%削減

G(ガバナンス)

政策保有株式 純資産保有比率※ ⇒ 10%未満

※は連結、その他は単体

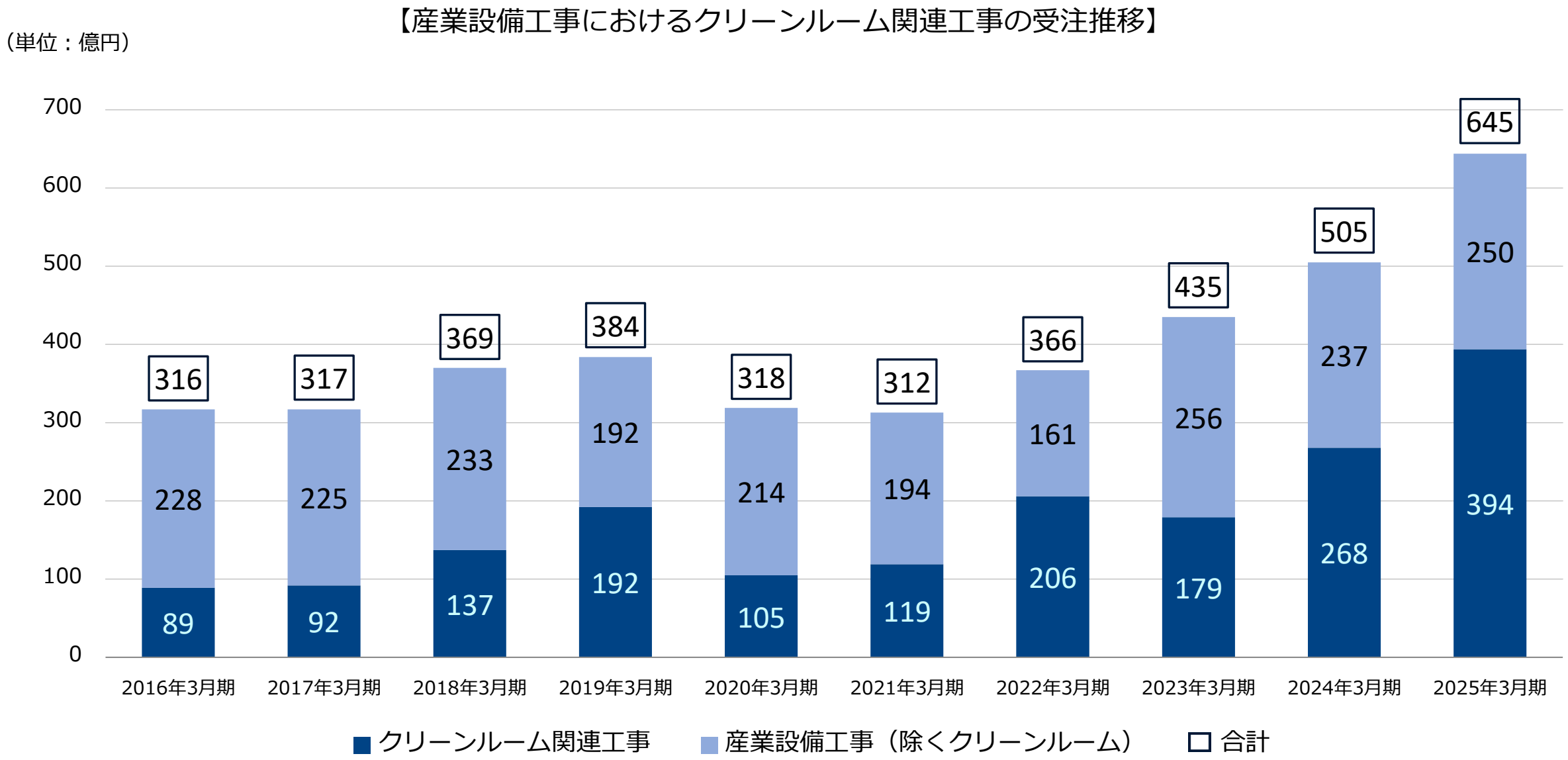
S(社会)

女性管理職比率	:10%以上
女性技術系職員比率	:15%以上
有給休暇取得率	:80%以上
新入社員3年離職率	:15%未満
男性社員育児休業取得率	:100%
新卒採用者数(累計)	:200人以上
1級管工事施工管理技士数	:550人以上

を目指す

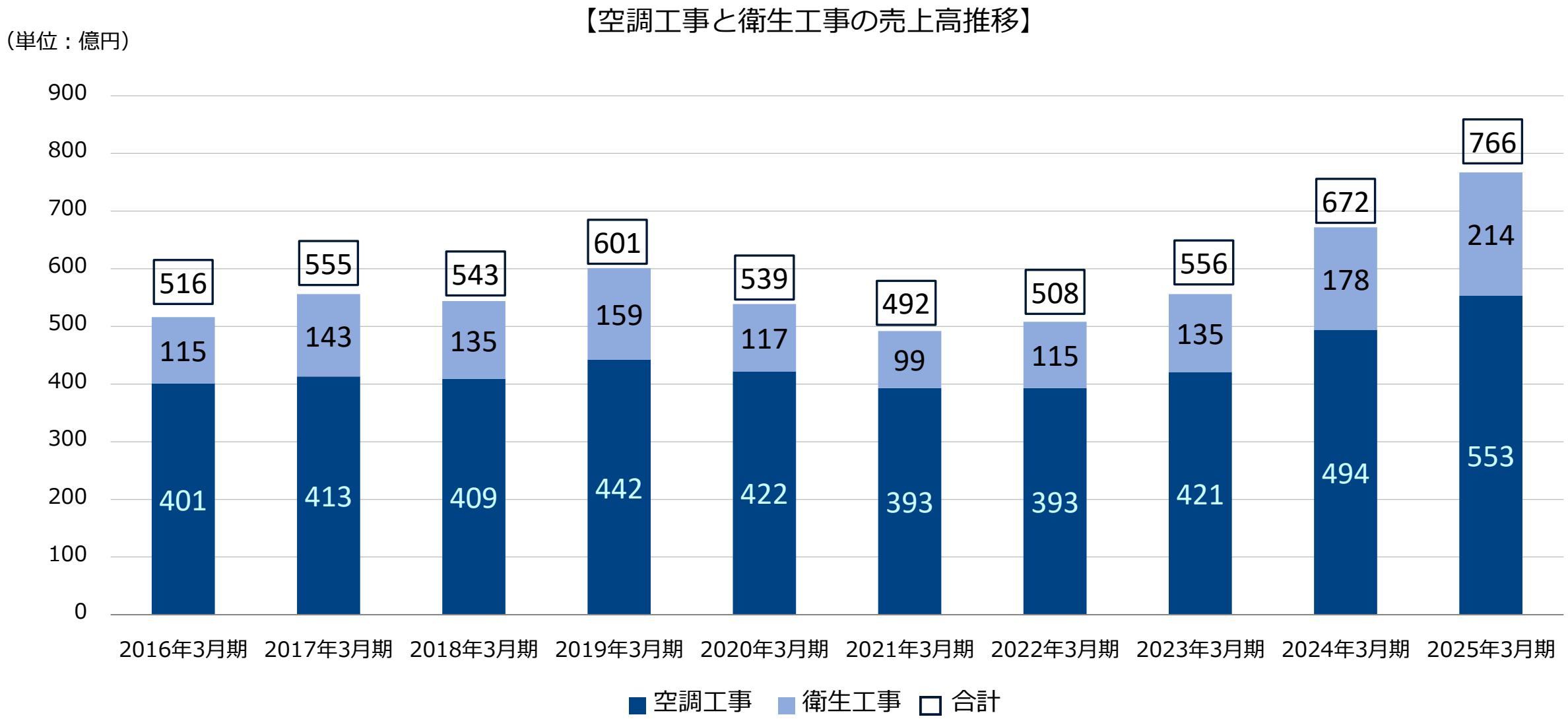
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

参考：産業設備工事とクリーンルーム関連工事（単体：受注）



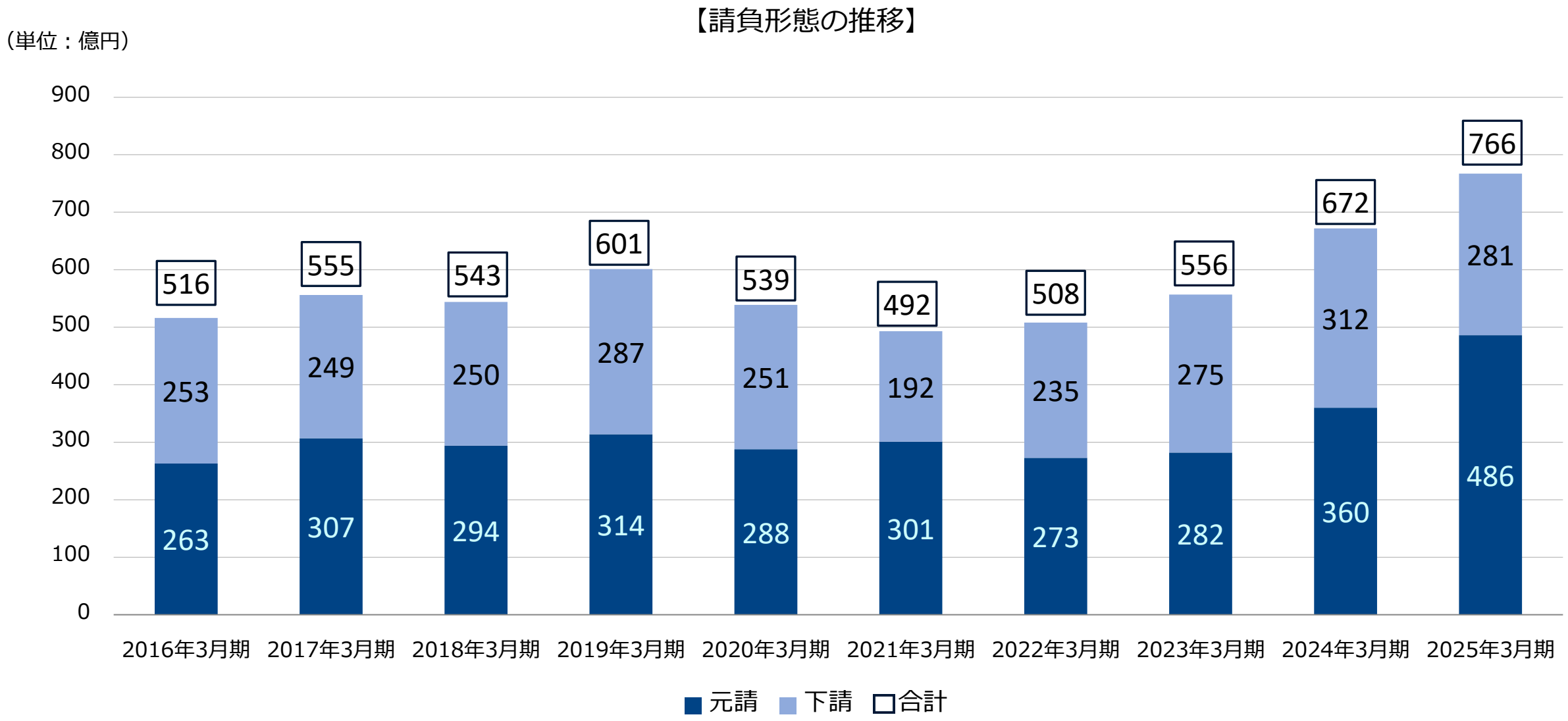
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

参考：空調工事と衛生工事の売上高推移（単体：売上高）



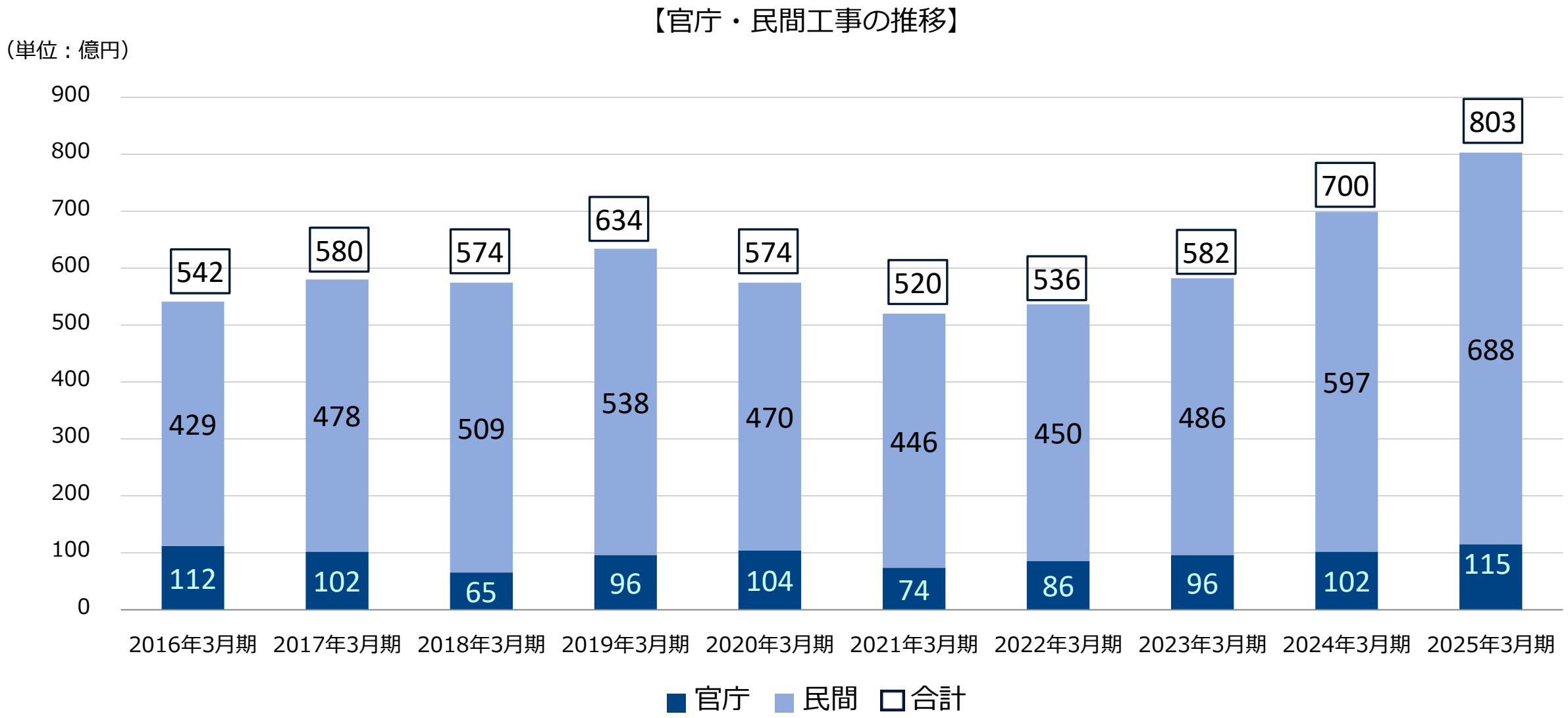
Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

参考：請負形態の推移（元請／下請　単体：売上高）



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

参考：空調衛生設備工事の官庁民間別内訳の推移（連結：売上高）



Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.

免責事項・お問い合わせ先

本資料の業績予想数値は、決算発表日において入手可能な情報に基づき推計した見込みで、今後予告なしに変更することがあります。
経済動向、業界や市場の動向、その他多様なリスクや不確実性等を含み、将来の業績を保証するものではありません。
本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ
株式会社テクノ菱和　CSR推進本部　CSR推進室
TEL：03-5978-2544　FAX：03-5978-2373

Copyright 2025TECHNO RYOWA LTD.